

都 退 教 協 だ よ り

No.271号

2016年4月20日発行

東京都退職教職員協議会 会長 柴田 廻春

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

江戸城外堀の花見と歴史散歩を楽しむ

今年も恒例の都高教退職者会の皆さんと合同の花見が4月1日に開催されました。

四谷駅に11時に集合して江戸城外堀を、一般公開された迎賓館、上智大学、市ヶ谷、法政大学を通過して神楽坂まで元気に歩きました。



満開の桜が咲く外堀の土手には、夕方からの花見の宴の場所取りの会社員や学生や家族連れなど、たくさん

人々で賑わっていました。

小休止のベンチでは、安部副会長が持ってきてくれた旬の筍と一升瓶をあっという間に平らげ、ほろ酔い気分江戸の華を味わうことができました。

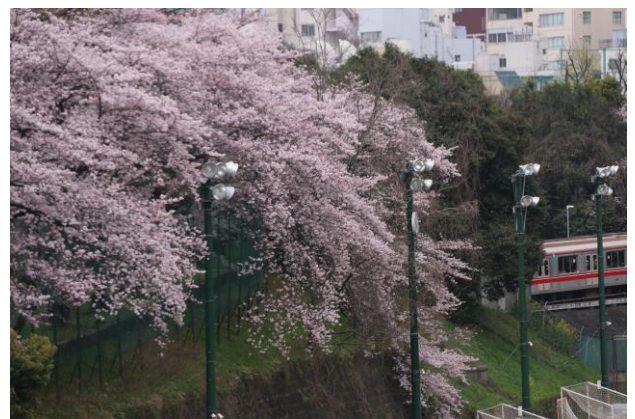
地元育ちの秋元前会長の案内で、昔都電が通っていた道や山県有朋が暗殺された場所な

ど外堀界限の歴史散歩を兼ねながらの花見を楽しむことができました。

懇親会は、神楽坂の蕎麦屋。昔話に花を咲かせつつ、弱者いじめの安倍政治を許さないと気炎を上げる一幕もある盛り上がった会でした。

参加者は、秋元、安部、柴田、深澤、谷口。高校退職者会は6名でした。秋には、行楽の会を予定しています。10月の会報でご案内いたしますので、ふるってご参加ください。

(谷口記)



5.3 憲法集会 一平和といのちと人権を！

日時：2016年5月3日(火・憲法記念日)

13:00~16:00

場所：東京臨海広域防災公園

りんかい線「国際展示場駅」徒歩4分

ゆりかもめ「有明駅」徒歩2分

スピーチ：むのたけじさん、浅倉むつ子さん、菅原文子さん、高校生平和大使@東京他

政党挨拶、パフォーマンス、リレートーク

12:00~プレコンサート 14:30~クロージングコンサート



沖縄辺野古の米軍新基地建設建設を許さない！

「僕はあきらめませんから！」と断言した青年のまなざしが今も脳裏に焼き付いている。



先日、沖縄のキャン
プシュラブの辺野古新
基地反対の座り込みに
参加した夜、大浦湾の
住民の会の皆さんと交
流し、映画「戦場ぬ止

み」で抗議のキャンドルデモをしていた青年の力強い言葉だ。この春、彼は琉球大学に入学した。

銃剣とブルドーザーによって日本の米軍基地の74%も沖縄に建設された。そして新たに、恒久的な新基地がジュゴンの棲む豊かな自然の大浦湾・辺野古に強行建設されようとしている。

東京・警視庁から100人以上の機動隊が派遣され、暴力がエスカレート、けが人続出。海上では抗議船の船長に海上保安庁が4人がかりで取り押さえて、意識を失い、嘔吐させるほどの暴力や、海に何度も沈めて海水を飲ませるなどの暴力をふるっていた。

昨年10月13日、翁長沖縄県知事は辺野古新基地の「埋め立て承認に瑕疵がある」と「承認取消」を行った。それに対し国土交通相は「取り消しの執行停止」と「代執行」訴訟を起こして新基地建設を強行した。一方、翁長知事は、「国地方係争委員会」に提訴した。

見せかけの「和解」

これらの裁判について多見谷裁判長は結審の日(2/29)に和解案を双方に提示した。その内容は、

- ① 防衛局は行政不服審査法に基づく審査請求及び執行停止申し立てを取り下げ埋め立て工事をただちに中止する
- ② 国は県に是正指示を出し、県は不服があれば1週間以内に国地方係争委員会に審査を申し出る
- ③ 係争委が「是正指示」が違法でないと

判断した場合、県は不服があれば1週間以内に「是正指示」の取り消し訴訟を提起できる

- ④ 判決が確定するまで普天間基地の返還および本件埋め立て事業に関する円満解決に向けた協議を行う
- ⑤ 判決確定後は、ただちに同判決に従い、同主文およびそれを導く理由の趣旨にそった手続きを実施するとともに、その後も同趣旨およびそれを導く理由の趣旨に沿った手続きに従って、互いに協力して誠実に対応することを相互に確約する

この和解案は、沖縄県と政府が対等の立場であることを無視した政府の訴訟は負けると判断した裁判所が安倍政権に助け舟を出したものであり、政府がそれを承諾して和解に応じたものだ。

その結果、3月4日、双方は訴訟を取り下げ、工事を中止し、お互いに誠意をもって話し合うことで、国と県が和解した。しかし、安倍政権は、工事用の台船・フロートを設置したまま、陸上の工事はできるとうそぶき、直ちに是正指示を出し、「和解」の協議も始まっていないのに「辺野古移設」が唯一の解決策だと言い張っている。つまり、和解を装って参議院選挙をのり



きる目論見に他ならない。辺野古現地の闘いをリードしている沖縄平和運動センターの山城博治さんは、「和解」になっても基地建設反対の運動として座り込みや海での監視行動など続けて、基地建設阻止を勝ちとろうと訴えている。そうした中、芥川賞作家の目取真俊さんが米軍の警備員に不当逮捕され8時間拘束されるなど、和解とはほど遠い緊張が現地を覆っている。

7月参議院選挙への対応について

4月14日、雨で延期された東京高退連による恒例の「巣鴨駅頭街頭宣伝」が行われ、秋元顧問、安部副会長、谷口事務局長と共に用意されたチラシ入りティッシュ配布に参加しました。各単会から参加した約40人の会員で、準備された約6千個のチラシを40分ほどで高岩寺（とげぬき地蔵）参詣人や通行人に配り終えました。

この間に、通行人の一人から声をかけられました。実は、私たちが「労働組合の相談は連合東京へ」と大きく印刷された手提げを持っていたからだと思いますが、その人が私に「連合ですか」と聞いてきたので、「連合の退職者です」と答えると、「私は民進党支持なのだが、できれば連合にも、もっと頑張ってもらいたい」と言いましたので、「私も推しているの、その旨を伝えます」と応えると、にっこりして横断歩道を渡っていかれました。

この時受けた私の印象は、民進党に対する町の人々が「自公政権の独善をこれ以上許してはならない。民進党、しっかりしてくれ」

と持っているのではないかとということです。これは、ある雑誌で読んだ、岡田民進党代表の「元々あった民主党の改革精神が政権与党で弱体化する中で、新たな維新の改革精神と相まって改革政党としての前向きさを取り戻したい」という発言にもあるような、1プラス1が、2ではなく、3以上になる可能性を含んでいると考えられます。これに「市民が主役」、「安保法制」で示された「民の力」などによる「非与党の結集」の呼びかけも背中を押していると感じられます。

時代の分岐点と言われる現在、①立憲主義に基づく安全保障、②規模拡大から再配分中心の経済、③脱原発のエネルギー政策、④保育、教育重視の政策等々に立脚した方針により、国政選挙に臨むことが私たちの立場と考えます。

同日、「参院選・あなたにや勝利」に向けた、「日教組東京」（日政連）決起集会に都退教協三役が参加しました。なお、「あなたにや」は、民進党から立候補する予定です。（柴田記）

2016 参議院選挙

わたしたちは日政連議員を推薦しています！

子どもたちの未来をあたためる！

愛知県選出

さいとう
斉藤
よしたか



生年・出身

1963年愛知県名古屋市生まれ

主な職歴

名古屋市小学校教員、
愛知県教組執行委員長

政治活動歴

2010年参議院選挙で初当選
2015年文教科学委員会理事

いのち、くらし、平和を守る！

兵庫県選出

みずおか
しゅんいち
俊一



生年・出身

1956年兵庫県豊岡市生まれ。

主な職歴

兵庫県中学校教員、兵庫県教組役員、
兵庫県学校厚生会、兵庫教育文化研究所

政治活動歴

2004年、2010年参議院選挙で当選
2011年内閣総理大臣補佐官
2013年内閣委員長

子どもたちに輝く未来を！

比例代表選出

あなたにや
まさよし
正義



生年・出身

1957年神奈川県横浜市生まれ

主な職歴

横浜市小学校教員、
横浜市教組・神奈川県教組・日教組役員

政治活動歴

2004年、2010年参議院選挙で当選
2012年文部科学大臣政務官
2015年予算委員会理事

<「東学農民戦争」について—歴史の真実を学ぶ—>

——最多の犠牲者は朝鮮人——日清戦争の知られざる裏面史

柴田 廸春

私がそれを知ったのは、2014年8月2日、在日韓人歴史資料館（南麻布）で行われた、第75回土曜セミナー、「抗日・東学農民戦争、隠蔽された殲滅作戦」と題する、井上勝生・北海道大学名誉教授の講演でした。内容の詳細は井上名誉教授の共著書「東学農民戦争と日本—もう一つの日清戦争—」（高文研）を是非参照していただきたく思います。ここでは、当日配布された資料と上記著書を参考にして、その概要を紹介することにします。

「日清戦争」は1894年春、朝鮮（当時～以後同じ）南部における「反侵略・反封建ほか」を掲げた農民蜂起（教科書などでは「東学党の乱」<注*「甲午農民戦争」>とも呼ばれている）が発端とされています。この「蜂起」に対し、日本は「邦人保護」、清（シン—現中国）は「清韓宗属」（清と朝鮮は主従の関係の意味）を理由に軍隊を派遣しました。この時日本軍は「蜂起鎮圧」に当たる一方で、王宮を占拠し、李明成皇后を暗殺するなど、ある種の「クーデター」を実行しています。

いずれにしても、この時「日・清」の両国は朝鮮王国の覇権をめぐる対立しており、1894年7月29日の豊島沖海戦によって戦闘状況となり、日本は広島城跡に「大本営」（天皇が臨席する戦争司令部）を置き、8月1日、清に「宣戦」を布告しました。この結果は、日本が朝鮮全土に戦線を広げ、清軍を鴨緑江まで追い詰め、清の降伏で戦闘は終わりました。こうして、日本は事実上朝鮮における覇権を握り、この10年後の日露戦争を経て1910年、朝鮮を植民地とします。

ここで問題にするのは、「日清戦争」後に起こった「第二次農民蜂起」を発端とする戦闘です。日本軍の王宮占拠を始めとする朝鮮支配の行動に対し、「東学」を奉じる集団と、各地の農民軍が抵抗運動を起こしたのです。集

団は、1894年10月12日以後、日本軍が南部から、朝鮮政府の許可なく独断で設置した軍用通信線の切断や兵站部隊陣地への攻撃などを展開しました。

こうした事態に対する日本軍の対応はいかなるものであったか。現在残っている、当時発せられた「指令書」他をもとに整理すると、次のようになります。

当時、日本の軍隊（陸・海軍）は、一般人が満20歳の兵役検査の後召集され、一定の訓練を経て兵役につきました。国内では、北海道への屯田兵としての派遣、1877年の「西南戦争」（西郷隆盛はじめ薩摩軍の反乱）、萩や佐賀における士族の反乱「鎮圧」などへ出兵しています。国外では、1874年、台湾における琉球人殺害に対する「報復」として出兵し、「高砂族」の人々を多数殺傷させています。続いて、1875年、朝鮮（江華島事件）へも出兵しています。また、軍隊は、検査後兵役に就く「現役兵」、その後一旦除隊した「予備兵」、一定の経過を経て召集される「後備兵」とされていて、「一旦緩急あれば」戦場に駆り出される仕組みになっていました。

朝鮮における「第二次農民蜂起」に対応するため動員されたのは、この「後備兵」だったのです。しかも、なぜかこの「後備兵」は全て香川・徳島・愛媛・高知の四国四県から、約200人ずつ召集されたのです。そして、この800人で構成される「東学農民軍殲滅日本軍後備歩兵第19大隊・第3中隊」は、大本営参謀次長兼兵站総監・川上操六少将直轄の下に編成され、1894（明治27）年11月6日仁川に上陸し、軍務につきました。「後備歩兵部隊」は、この第19大隊以外にも、「北部・南部・首都」各地の「兵站線守備隊」として、他地域からの召集兵により編成、配置され、参戦しています。これらの部隊に

事実上日本軍支配下にあった朝鮮政府軍を加え、約4千人が約半年間にわたり「東学農民軍討伐」に当たったわけです。当時、朝鮮の北側に位置するロシアの参戦を恐れた日本軍は、農民軍を北部、東部、南部の三方向から朝鮮半島西南端に追い詰める作戦をとりました。その時の大本営・川上参謀次長の命令は「悉（ことごと）く殺戮（さつりく）すべし」（*「皆殺しにせよ」）（「南部兵站總監部陣中日記」）でした。この命令は何度も繰り返し出されています

戦闘そのものについては、実際に現地で調査に当たった、前記「東学農民戦争と日本」の共著者である中塚明奈良女子大名誉教授と朴孟朱韓国・円光大学校教授の記述によることとします。お二人は、主として「激戦地～最終戦闘地」であったと言われる全羅北道・全羅南道（韓国南西部）に現存している、東学農民の苦闘を示す碑や彫刻、記念の建造物などを巡ったそうです。この現地調査と様々な資料を検討した結果、凡そ次のような事実が明らかになりました。

戦闘は1894年10月から、翌95年2月まで続きました。戦闘は、元々、一般農民主体の「農民軍」と、訓練を積み、実戦経験がある日本の「東学農民軍討滅部隊」とでは、戦力的にも大きな差がありました。加えて多くが火縄銃で抵抗する「農民軍」と、現役兵の村田銃より口径も4ミリ大きく、射程距離が400メートルのスナイドル銃（ライフル銃）で攻撃する「討伐部隊」とでは、対等な闘いではありませんでした。それでも農民軍は、「地の利」と知恵や工夫で、ゲリラ的な闘いを繰り広げ、「討滅隊」を苦しめました。しかし力及ばず、1895年2月初め、西南端の珍島まで追い詰められた「農民軍」は、文字通り「殲滅」されてしまいます。

各地の交戦や拘束後の処刑などにより少なくとも3万人、負傷後の死者を加えると5万人超の農民（軍）が殺害されたと推定されています。この人数は、「日清戦争」での戦死者数を遥かに超えるものですが、日本軍参謀本

部が正史として1904年に刊行した全8巻にも及ぶ「明治27・8年日清戦史」には、この「三路包圍殲滅作戦」については全く記述されていません。それどころか、「討滅作戦」で戦死した日本兵の日付と場所が変えられているのです。この徳島出身の杉野上等兵は、1894年12月10日、西部方面の連山で戦死していますが、1935年刊の「靖国神社忠魂史」（陸・海軍大臣官房監修）には、「1894年7月29日、北部・成歆で戦死」となっています。「忠魂史」にある日付は、「日清戦争」の緒戦の時期で、杉野上等兵は、召集を受けて松山に向かっていた頃に当たります。

この「討滅作戦」についての日本軍の企図は、その後の「朝鮮支配」の実態に明らかのように、「東学が二度と再起できないように」「一人の東学農民も生かしておかないように」する、でした。しかし、実際上はこの上なく卑劣な「テロ行為」でしかないこの作戦が、最初から国内外に示した上、十分な理解と納得を得られる「大義名分」も「根拠」を明らかにする見通しが無い故に、明治（薩長政権）以来、自分に都合の悪いものに対応させてきた、「何も無かったことにする」方法を取る以外なかったからではないかと、私は考えます。

前後しますが、著書にあるように、この調査研究の発端は、20年前（1995年7月）北海道大学文学部研究室の段ボール箱に入っていた6体の頭骨でした。その一つには「韓国東学首魁ノ首級ナリト云フ 佐藤政次郎ヨリ」と墨署されていました。佐藤政次郎は、札幌農学校出の技師で、この頭骨は韓国西南端の「珍島」で採集したものとの添え書きが付されていたのです。その後の詳しい経緯は著書に譲りますが、この「東学農民戦争」については、家永三郎教授が起こした「教科書裁判」でも取りあげられたということです。井上名誉教授は、講演の中で、「家永教授は恩師の一人である朴宗根先生から、東学農民戦争について、何らかの示唆を得ていたことが考えられる」という趣旨の話をされていました。

都退教協 定期総会のご案内

安政法制の施行により「戦争をする国」へと大きく舵を切った安倍政権は、7月10日に予定されている参議院選挙を前に、ナチスの全権委任法と同種の「緊急事態条項」を憲法にかき込む壊憲をもくろんでいます。

このような事態の中で、安倍政権の横暴を許さず、子や孫に平和憲法を引き継ぎ、私たちが安心して生活できる社会を実現する退職者の運動が重要になっています。

都退教協の今年の運動方針を論議する第42回定期総会を下記のとおり開催します。

参議院選挙まっただなかの開催となりますが、会員の皆さんと膝を交えてじっくり話し合える総会にしたいと考えています。多くの会員の皆様のご出席と活発な討議を期待しておりますので是非ともご参加ください。なお、議案書は6月15日発行の「都退教協だより」272号で会員にお送りいたします。

記

- 1、日 時 7月6日(水) 午後2時開会～4時閉会
- 2、会 場 日本教育会館2階 東京教組会議室
- 3、議 事 ①2015年度 経過・決算報告
②2016年度 活動方針・予算案
③2016年度 役員人事
④総会宣言
⑤その他

※閉会后 神保町の中華料理店「三幸園」で懇親会を開催いたします。(会費三千元)

※連絡先 柴田会長 090-6700-7087 谷口事務局長 090-5202-0117

編集後記

* 熊本大地震の甚大な被害が明らかになるにつれて、日本中が大地震にいつでも見舞われる事を思い知り、その備えがいかに重要か痛感した。NHKスペシャル(4/3)の「巨大災害 MEGA DISASTER II 日本に迫る脅威 地震列島 見えてきた新たなリスク」をご覧になった方も多いと思いますが、首都圏の大地震も今起きてもおかしくない日本列島の状況が解説されていました。熊本に近い、稼働中の川内原発に異常はなく発電しつづけているというのが狂気の沙汰と言うほかない。

* アベノミクスの破綻が明らかになり、私たちの食も医療もグローバル企業の餌食になるTPPの正体も明らかになるなか、国民の「もう、騙されないぞ!」と言う声が大きくなっている。私たちの年金基金を株につぎ込んで大損失したことをひた隠し、高齢者や若者に金をばらまいて買収しようとしても、もはや主権者は騙されないだろう。そのことを4月24日投票の北海道と京都の衆議院議員補欠選挙が明らかにしてくれるだろう。

* 日教組の組織内候補であり、退職者も一丸となって再選にとりくんでいる、なたにや正義さんは、安倍政権の道徳教育の教科化、教職員の削減と管理強化に反対して国会で奮闘している、先日の決起集会(3ページ参照)でも、教職員の多忙化や貧困・格差拡大、教育への政治介入などについて鋭く質問していることが報告された。都退教協も、なたにや正義さん当選のため、あと80日余を全力でとりくみたい。(谷口記)